

18次パレスチナ医療・子供支援事前報告会

- 1) 話題提供 侵略戦争による環境破壊について考える
- 2) WEB記念講演 安藤恒平氏（赤十字国際委員会医師）

「イスラエルによる軍事侵攻が続く
ガザ地区の現状と医療活動について」

3) 18次医療・子供支援活動メンバー紹介

日時：2026年8月9日(日)13時半開場 14時開演 16時終了予定

会場：エルプラザ2階環境研修室

会費：500円（学生、ZOOM参加無料）

ZOOM参加ご希望の方は右側のQRコードから13時45分以降に入場できます

ミーティングID: 885 0182 0747 パスコード: 395151



ZOOM参加QRコード

一層深刻化しているパレスチナ・レバノン情勢のなか、北海道パレスチナ医療奉仕団は2026年も8月終盤から9月終盤にかけて、安全を最優先に「パレスチナ医療・子供支援活動」を行います。イスラエルによる入国審査など活動が厳しくなっていますが、一方15年続けたことで現地で多くの仲間や協力者を得ることができました。本日は出発にあたり私たちの考えや抱負を皆さんにお伝えしたいと思います。またこの報告会に現在ヨルダン在住のICRC医師・安藤恒平さんに現地からWEBで参加していただき「イスラエルによる軍事侵攻が続くガザ地区の現状と医療活動について」お話ししていただきます。是非この貴重な機会を多くの皆さんと共有できればとおもいます。

講師紹介 安藤恒平氏 赤十字国際委員会医師

2021年より赤十字国際委員会（ICRC）の外科医として、南スーダン、ナイジェリア、ガザに派遣され、紛争犠牲者の治療にあたる。2023年10月7日以降、これまで4度ガザ入りし、最初の3回は南部ハンユニスのヨーロッパ人ガザ病院に、直近では、ICRCが今年5月に開設した赤十字野外病院に勤務した。ICRC以前は、国境なき医師団に在籍し（2011ー19年）、ナイジェリアやパキスタン、イエメン、南スーダン、パレスチナ／ガザに赴任。同団体では、日本理事も務めた。日本外科学会専門医、日本整形外科学会専門医の資格を有する。



ガザ地区 イスラエルにより強制に簡易テントに押し込まれたガザ避難民キャンプ。下水処理設備もなく雨水とともに垂れ流しの状態で、少量の配給と濡れたブランケットにくるまり生き延びる人々。栄養失調と蚊やネズミがもたらす深刻な感染症で弱者から命を落とす。



イラン石油施設 2026年3月の米・イスラエルによる空爆だけでも29,800トンもの二酸化硫黄が大気中に放出されたと推計。加えて重油由来の有機物等も含んだ黒い雨が広域に降り注ぎ健康被害は深刻でさらに土壌汚染、海洋汚染まで及び、その汚染の影響は長期にわたる。



モナ・ハリルさん環境保護活動家（76歳）
レバノン南部で25年以上にわたりウミガメの保護活動に尽力してきた。6月上旬、マンズーリ村の自宅がイスラエル軍の空爆を受け、搬送先の病院で死亡。自宅を拠点にウミガメの産卵地を守り、長年ボランティアの育成やエコツーリズムの推進に貢献してきた。



instagram QRコード